

## 惜別、高橋正人先生

高橋正人先生が亡くなりました。

三井秀樹

平成12年7月18日、享年87才であった。その朝、睦子夫人から電話を受け、私は心の動揺を抑えられぬまま小日向のご自宅へ向かった。病院から帰宅なさったばかりの先生のご遺体は、先日お会いした時と同じやさしいお顔で白いシャツとネクタイのスーツ姿はお若いときから身につけられた一流のダンディズムを彷彿とさせた。凜とした静寂につつまれ目を閉じられた先生の側で、先生との出会いから40年という時の流れと私自身の人生が重なった。

私が東京教育大学の構成専攻に入学した昭和30年代後半は、日本の経済が高度成長期に入り、グラフィックデザインに対する評価が高まり、グラフィックデザイナーは花形の職業であった。高橋先生は私たちに実技と理論の両面から構成とは何か、身をもって教えられた。私は後年、それがバウハウスの教育理念に基づいた構成学であり、アメリカに渡ったMITのG・ケベッシュの視覚言語や先駆的な視覚伝達理論であったことも知った。

21世紀を目前にしてマルチメディア時代を迎えた現代、デザイン・芸術など造形表現に求められる重要な要素はやはり美的な感性にあり、その根底の理念は高橋先生が生涯に渡り追求した構成学に在ることを、私たちは体感しているはずである。

つまり従来のデザイン・芸術の造形的感性を、先生は視覚の原理として、あくまで科学的側面から掘り下げ、わが国の「構成学」の確立に寄与したのである。

当時、弱冠37才の教授であった先生は、東京教育大学として新制大学に移行する際、文部省の高官とかげ合い、デザイン教育に構成学が不可欠であることを説き、構成専攻の新設を認めさせた。その後、構成専攻は全国の構成教育の中核となり、



多くの教育者、デザイナーを輩出したばかりでなく、「構成」は義務教育のデザインの教科に組み入れられ、日本のデザイン全体のレベル向上に貢献した。戦後日本のデザインの質の高さは海外からも注目され、グラフィックデザインの賞を多くの日本人が占めるという現象が生まれたのも、こうしたデザインの基礎教育が徹底したからに他ならない。

私はこれまで幾度かMIT (マサチューセッツ工科大学)のメディア・ラボを訪れたが、ある時私の学生の課題作品を紹介しながら講演したことがある。その時VLW (Visual Language Workshop)の故M・クーパー教授からバウハウスの教育理念が、今もって存続しているのは日本だけだと絶賛され、戸惑いつつも嬉しく思い、改めて高橋先生のデザイン教育における先見の明を痛感した。また先生は日本デザイン学会創立時から中心的に活躍され、理事長として日本のデザインの興隆に寄与されたことは、すでに周知のことであり、学会最初の名誉会員となられた。

今、私の手元に「良いデザイン」という先生の著書があるが、これは1958年、先生が46才の時著した少年・少女向けのデ

ザインの啓蒙書である。私は先生のその後の名著のルーツも、実はこの本に在ると思っている。先生の著書に共通する点は、難解な理論や論述を常に実践を通し、平易な文体でわかりやすく説くことであり、多くの研究者の難解な類書に比べ、どれだけ多くの人々に知識を授けたことであろうか。

私も、その後ようやく何冊か自著を出版するようになったが、そのコンセプトは結局はこの「良いデザイン」に帰し、その枠から一歩も出てないことを悟った。その理由は、その後のコンピュータテクノロジーの進歩により視覚の領域は格段と広がったが、これを捉えるのはあくまで私たち人間の感性であり、その根底の視覚の原理は何ら変わるものではないからである。また先生の研究領域は構成学にとどまらず、著書「日本のしるし」シリーズにみられるように、すぐれた日本の伝承の造形美にも及んだ。家紋・商紋から馬印に至るしるしを、単なる伝統的意匠と捉えたそれまでの研究者と異なり、視覚伝達デザインとしての記号やシンボルとして学際的に考察した一連の著書は、わが国の伝承デザインの美を広く一般に紹介された。今や先生の確立された構成学の領域は遠く海外にも知れ渡り、アジアの諸国はもとより、欧米の留学生が日本に学ぶ時代となった。

今もって私自身の目標は先生の構成学であり、憧れは先生ご自身の一流のファッション・センス、ドアの把手の色にまで拘られたご自宅の室礼、先生のクオリティ・オブ・ライフスタイルそのものである。先生の主治医は美人の女医さんであったと聞いていた。亡くなる一週間ほど前、先生は睦子夫人に「きれいな女医さんでよかった」と明るく話されたそうである。夫人は「最後まで美を追求する人でした」とほほえんだ。

懐かしい先生笑顔が忘れられない。

## 日本デザイン学会平成12年度 第2回理事会議事録

日 時：平成12年5月13日（土曜日）  
12:00～13:00

場 所：実践女子大学

出席者：原田（昭） 杉山、和田、  
五十嵐、石川、石村、大平、加藤、  
久保、黒川、清水（国） 鈴木、平、  
中嶋、生田目、蓮見、原田（泰）  
日野、森田、両角、渡辺、伊藤、青木、  
田中、山中

委任状出席者：荒井、石井、勝浦、川崎、  
車、佐藤、渋谷、清水（忠） 須永、  
豊口、西川、早坂、日原、三橋、  
宮崎（清） 宮崎（紀） 山内

### 1. 会長挨拶

会長挨拶のなかで、日野春季大会実行委員長をはじめとする実行委員各位に謝意が表された。

### 2. 名誉会員紹介

会長より、当日参加の名誉会員の紹介があり、ひきつづいて名誉会員から挨拶がなされた。また、欠席された名誉会員から寄せられたメッセージが読み上げられた。

## 審議事項

3. 平成12年度第1回理事会議事録の承認  
田中本部副事務局長より平成12年度第1回理事会議事録案が提示され、原案通り承認された。

### 4. 平成12年度秋季大会について

清水（国）実行委員長ならびに出口会員より秋季大会の日程案（10月28、29日）およびプログラムの案が提示された。宮内会員より概要集原稿の締め切り日程について質問がなされ、概要集編集委員会で進行中との回答がなされた。また、原田会長より企画セッションを検討してもらいたいとの提案がなされた。これに関して、審議の結果、2

日間という日程での実施は変更せず、プログラム形態を工夫することで対応することとし、企画委員会に検討を依頼することとした。

5. 平成13年度春季・秋季大会について  
原田会長より、平成13年度春季大会および秋季大会の開催希望に対する意見が求められた。宮内会員より、以前より何度か沖縄を候補としたい旨の意見が出された旨が紹介された。審議の結果、沖縄は会員数が少ないなどの問題点があるので、会長より直接、関係者に問い合わせることとした。

### 6. 作品集編集委員会より

蓮見作品集編集委員会委員長より作品集の応募状況について、締め切り日の5月10日までの応募が8件であったため、さらに6月13日まで延長したいとの案が提示され、審議の結果承認された。ひきつづき、和田副会長より、今後の検討課題としてGマークとの内容的な相違点を明確にすること、ならびにB部門の応募が少ないので、学生作品などの応募を呼びかけることなどの意見が出された。

### 7. 会員の移動

本部事務局に提出された書類を回覧、審査した結果、入会 [正会員13名（うち外国人会員1名）] 退会 [正会員3名] 休会 [正会員1名] が承認された。

## 報告事項

8. 平成12・13年度の学術会議材研連  
鈴木学術会議担当理事より、以下の3点が報告された。

(1) 科研費の細目としての「デザイン」の申請をすすめる努力をしてもらいたい。

(2) 昨年度に引き続き、本年度も是非2003年の学術会議による国際会議の申請をしたい。

(3) 研連の見直しに伴い、現在の材料学研連から新設の人間と工学研連に移る可能性も考えられるが、メリット、デ

メリットも併せて今後の検討が必要。

### 9. 学術会議芸研連報告

日野学術会議担当理事より、以下の2点が報告された。

(1) 芸研連のシンポジウムが6月3日（土）に日大芸術学部にて開催される旨の案内。

(2) 第18期の芸研連登録団体が28団体あった旨についての紹介。

### 10. 運輸省一般図記号検討

加藤理事より、5大学およびデザイン学会からの申し入れ事項のうち、約半数がサインデザイン協会で実施されることになった旨が紹介された。このことは、リスボンで開催される大会にて報告され、引き続いて10月28日に開催される東京での大会で報告される旨が紹介された。

### 11. 本部事務局移転について

青木本部事務局長より、本部事務局の移転先候補があるので、現在、条件を確認中との報告がなされた。

### 12. 次回理事会について

次回運営理事会を7月15日（土）に開催する旨が確認された。

記録（田中み）

## 日本デザイン学会 本部事務局移転のお知らせ

平成12年7月1日より本部事務局が移転いたしました。これまでより広くなりましたので、学会誌の閲覧等も出来るように整備していきたいと思っております。

新住所

〒167-0024 杉並区西荻北3-21-15

ベルフォート西荻703

日本デザイン学会本部事務局

TEL：03-3301-9318

FAX：03-3301-9319

本部事務局より

## 募集案内

### 第2回日本感性工学会大会 論文募集 大会

感性およびそれに関連する論文・解説・製品等を広く募集します。

<発表種別> (A) 一般発表, (B) ポスターセッション, (C) 製品展示  
(A) 一般発表(口頭発表), (B) ポスターセッション申し込み方法

次の事項を書いてメール, FAX(03-3549-7727)あるいは郵便にて学会事務局にお送り下さい。

1. 論文題目
2. 著者名(所属)
3. 連絡先(住所, E-mail, TEL, FAX)
4. 使用器材 OHP その他
5. 発表希望分野(研究部会等)

<お願い> 申し込みはいずれの場合でも, 最初に「第2回感性工学会大会申し込み」と書いて下さい。

申し込み締め切り:

2000年7月19日(水)(必着)

予稿集原稿(カメラレディー)送付締切  
発表申込者には事務局より論文執筆のフォーマット等をお送りします。

ページ数: 口頭発表、ポスター発表いずれも1ページです。

原稿締切: 2000年8月10日(木)(必着)

<申込書および原稿送付先>

日本感性工学会事務局

〒104-0045 東京都中央区築地

4-12-2-1005

TEL / FAX : 03-3549-7727

URL : <http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/jske/>

E-mail : [jske@wwwsoc.nacsis.ac.jp](mailto:jske@wwwsoc.nacsis.ac.jp)

(C) 製品展示のお申込

1 ブース(90cm×180cm)4万円

(1/2ブース2万円も可)

1. 展示品目
2. 企業、団体名
3. 連絡者名、連絡先(住所, E-mail, TEL, FAX)
4. 必要ブース数を下記事務局へFAXまたはEmailでお知らせください。

日本感性工学会事務局 JSKE2製品展示係

FAX : 03 - 3549 - 7727

E-mail : [jske@wwwsoc.nacsis.ac.jp](mailto:jske@wwwsoc.nacsis.ac.jp)

### エコデザイン2000ジャパン

#### シンポジウム講演募集

会議名称: エコデザイン2000ジャパン  
シンポジウム

主催: エコデザイン学会連合

共催: IEEE-TCEE (Electronics & Environments) 日本委員会, エレクトロニクス実装学会, 応用物理学会, 科学技術と経済の会, 化学工学会, 可視化情報学会, 環境科学会, 金属系材料研究開発センター, 色材協会, システム制御情報学会, 電子情報通信学会, 日本機械学会, 日本金属学会, 日本建築学会, 日本工学会, 日本塑性加工学会, 日本デザイン学会, 日本燃焼学会, 日本パリュウ・エンジニアリング協会, 日本品質管理学会, 日本プラントメンテナンス協会, 日本水環境学会, 日本油空圧学会, 溶接学会, 精密工学会(幹事学会)などエコデザイン学会連合の加盟団体

後援: 産業環境管理協会, 日本経済新聞社  
開催日: 2000年12月13日(水) ~ 15日(金)

会場東京ビッグサイト(東京)

講演申込締切: 2000年9月8日(金)

講演論文原稿締切: 2000年10月20日(金)

#### シンポジウム開催趣旨

地球環境, 資源問題に対する認識が高まる中で, 工業製品による環境影響, 大量廃棄物などの問題がクローズアップされています。本来, 産業界に求められているのは, 社会の中で利用可能な機能の提供であり, その媒体としてのもの自体を増やすことではありません。これからは, 資源の循環性, 再使用性を高めることで, 資源・エネルギーの消費量と廃棄物量を最小化しつつ, 社会で必要とされる機能を提供, 保全する循環型社会を実現することが急務と考

えられます。このためには, 環境調和型製品設計技術, 環境にやさしいプロセス技術, リサイクル・リユースなどの逆工程技術, メンテナンス技術などの研究・開発とともに, それらに基づく製品・設備のライフサイクル管理の実現が望まれます。さらに, 循環型社会にふさわしいビジネスモデルの構築やそれを支える社会システムの整備が必要です。

本シンポジウムの目的は, これらの課題に関するさまざまな取り組みについての発表討論を通じて, 循環型社会の実現に向けた努力の一端を担うことにあります。このため, 本シンポジウムでは, 研究開発の講演のみでなく, 産業界のケーススタディについても中心的トピックとして取り上げて行きます。本シンポジウムは, 国際EcoDesign会議(EcoDesign199: 1999年2月開催, Electronics Goes Green 2000: 2000年9月にベルリンで開催予定, EcoDesign2001: 2001年12月に日本で開催予定)の一環として, 国内47学協会が参加するエコデザイン学会連合の基で, 国内の関連研究者が一堂に会する日本最大のエコデザインシンポジウムで, 1999年12月に開催されたエコデザイン99ジャパンシンポジウムに続いて企画されたものです。今回がエコデザイン学会連合主催の第1回シンポジウムとなり, 多分野の研究者, エンジニア, 企業経営者が一堂に会することで様々なシナジー効果が期待されますので, 皆さん奮ってご参加下さい。本年度も12月の地球温暖化防止月間に開催されるエコフェア「エコプロダクツ2000」との同時開催となっています。トピックス

カテゴリー a: 環境調和型製品設計(エコデザインの方法論, 分解性設計/リサイクル性設計/リユース性設計などの要素設計技術, エコデザインツール, 開発事例)

カテゴリー b: プロセス技術と要素技術(エコマテリアル, クリーナープロ

セス、省資源・省エネ技術、鉛フリー実装技術)

カテゴリーc: 逆工程技術(リユース技術、マテリアルリサイクル技術、エネルギー回収技術、分解・選別技術、廃棄物処理技術)

カテゴリーd: メンテナンス工学・サービス工学(メンテナンス計画・管理、メンテナンス技術、メンテナンス情報管理)

カテゴリーe: 循環型ビジネスシステム(ライフサイクル・マネジメント、ライフサイクル評価、LCA、循環ロジスティクス、循環型ビジネスモデル、環境ビジネスの実践・実例、環境管理システム)

カテゴリーf: 循環型社会システム(社会システムの計画と管理、環境教育、環境ラベル、グリーン購入、環境会計、法制度)

申込方法

・ホームページ

(<http://www.jspe.or.jp/Eco2000/Eco2000reg.html>)によるオンライン申込をお願いします。

・ホームページをご利用できない方は、下記申込先までお送り下さい。

講演を申し込まれる方は、論文タイトル・著者名・トピックス(例a)・連絡先・所属・住所・E-mail・FAX番号・講演論文のAbstract(200字以内)を2000年9月8日(金)までに、下記申込先までお送りください。ご講演の採否を10月中旬までにお知らせいたします。

・講演論文は、図・表・参考文献を含めてA4用紙2~4ページとし、締切は2000年10月20日(金)です。

会議参加費(論文集含む)

共催学会会 事前受付: 12,000円

当日受付: 15,000円

非会員 18,000円

学生 5,000円

申込先・連絡先

精密工学会「エコデザイン2000

ジャパン シンポジウム」係

102-0073 東京都千代田区九段北

1-5-9, 九段誠和ビル2F

電話: 03-5226-5191,

FAX: 03-5226-5192

E-mail: [jspe@jspe.or.jp](mailto:jspe@jspe.or.jp) (お問い合わせはこちらまで)

<http://www.jspe.or.jp/Eco2000/Eco2000Japan.html>

#### INTERACT2001 論文募集参加募集

主催: 情報処理学会, ヒューマンインタフェース学会

期日: 2001年7月9日(月)~13日(金)

場所: 早稲田大学国際会議場

Human-Computer Interaction (HCI) is about theories, methods and tools that relate to the design, development, evaluation and use of human-oriented computer-based systems; and that enhance and support human work and activity, especially in terms of reliability, usability, acceptability and user satisfaction.

This is the first time that INTERACT will be held in the Asian region. There will be more chances than ever before that research and development activities in Western countries will meet with those in Eastern countries. Many people from the Asia Pacific region, as well as from Europe, America and other regions of the world, are expected to participate in the conference making it a truly world-wide HCI conference.

問い合わせ先

INTERACT2001 事務局 株式会社ノバス内)

〒150 0045 東京都渋谷区神泉町9-5

TEL: 03 5489 7471

FAX: 03 5489 7472

詳しくは下記Webページをご覧ください。

<http://www.interact2001.com>

#### 募集第10回国際デザイン・

#### コンペティション作品応募

主催: 財団法人国際デザイン交流協会  
国際デザイン・コンペティションは、

人類の豊かな未来へのビジョンを示すデザインの役割を問うものです。このコンペティションは、1983年を第1回として、あらゆるデザイン分野を対象に隔年毎に実施し、優秀な作品に賞を贈るとともに、それらの作品の展示や出版などを通じて、人々のデザインに対する理解と関心を深め、文化の向上に寄与しようとするものです。

期日: 2000年12月1日

第1次審査作品受付開始日

2001年1月19日

第1次審査作品受付締切日

詳しくは下記Webページをご覧ください。

<http://www.jidpo.or.jp/japandesign/jdf/index.html>

#### 平成12年度(第22回)沖縄研究奨励賞

応募締切は9月30日(消印有効)

沖縄協会主催、沖縄研究奨励賞の本年度の応募受付を7月15日から開始します。

沖縄研究奨励賞は、沖縄の地域振興及び学術振興に貢献する人材を発掘し、育成することを目的としています。

本奨励賞は、沖縄を対象とした将来性豊かな優れた研究(自然科学、人文科学又は社会科学)を行っている新進研究者(又はグループ)の中から、受賞者3名以内を選考し、奨励賞として本賞並びに副賞として研究助成金50万円を贈り表彰するものです。

応募資格は、学会、研究機関若しくは実績のある研究者から推薦を受けた50歳以下(7月15日現在)の方で、出身地及び国籍は問いません。

応募方法

1) 所定の「沖縄研究奨励賞推薦応募用紙」に所要事項を記入し、2) 研究成果物(論文3点以内、著書がある場合は1冊)、3) 提出する研究成果物の要旨(A4判横書き1,000字以内)、4) 研究業績リスト(著書、論文等30点以内、A4判横書き)を添えて郵送により提出していただき

ます。

応募書類の提出先

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-6-15 グローリアビル7F

財団法人沖縄協会

応募期間

平成11年7月15日～9月30日

(当日消印有効)

受賞者発表

平成11年12月11日頃

贈呈式

平成13年1月18日

那覇市内のパシフィックホテル沖縄で開催します。(受賞者には贈呈式の後、受賞記念講演を行っていただきます。)応募についての詳細は、沖縄研究奨励賞規則を過去の受賞者は、受賞者一覧をご覧ください。

問い合わせと推薦応募用紙のご請求

電話(TEL03-3580-0641, 沖縄協会「沖縄研究奨励賞」担当:石坂)またはE-mailでお願いします。

E-mailでの推薦応募用紙のご請求は、件名に「沖縄研究奨励賞応募用紙希望」とご記入の上、メッセージの本文に「郵便番号」「ご住所」「ご氏名」(推薦応募用紙の送り先です。)を明記して下さい。

沖縄研究奨励賞規則

(目的)

第1条 沖縄の地域振興及び学術振興に貢献する人材を発掘し、育成するため、財団法人沖縄協会沖縄研究奨励賞(以下「奨励賞」という。)を設ける。

(対象)

第2条 奨励賞は、沖縄を対象とした将来性豊かな優れた研究(自然科学、人文科学又は社会科学)を行っている50歳以下(7月15日現在)の新進研究者(又はグループ)3名以内に贈る。

(表彰)

第3条 受賞者には、奨励賞として本賞並びに副賞として研究助成金50万円を贈り表彰する。

(選考委員)

第4条 財団法人沖縄協会会長(以下

「会長」という。)は、学識経験者の中から奨励賞選考委員(以下「委員」という。)若干名を委嘱する。

2 委員は、選考委員会(以下「委員会」という。)を構成し、当該年度の受賞候補者を選考する。

(選考委員会)

第5条 委員会は、年1回以上会長が招集する。

[第2項～第7項 省略]

(候補者)

第6条 奨励賞に応募する資格を有する者は、第2条に定める対象に該当し、且つ学会、研究機関若しくは大学又は実績のある研究者から推薦を受けた新進研究者又はグループ(以下「候補者」という。)とする。

2 候補者がグループの場合は、1グループを1名とみなす。このとき代表者1名を決めなければならない。

3 前項のグループ構成員は、全員が50歳以下(7月15日現在)でなければならない。

4 候補者の出身地及び国籍は問わないものとする。

(応募方法)

第7条 候補者又は前条第1項により候補者を推薦する者(以下「推薦者」という。)は、別紙「沖縄研究奨励賞推薦応募用紙(以下「応募書類」という。))に所要事項を記入するものとする。

2 候補者がグループの場合は、次により応募書類に記入する。

(1)「候補者」の欄にグループ名及び代表者名を記入する。ただし、グループ名を持たない場合は、構成員全員の氏名を記入し、且つ代表者を明記する。

(2)「略歴」の欄にグループの代表者の略歴を記入し、そのほかのメンバーの略歴は、A4判に横書きで作成し、別紙として応募書類に添付する。

3 研究は、継続中のものでも応募の対象となる。

4 候補者又は推薦者(以下「候補者等」という。)は、第1項の応募書類のほか次に掲げる選考書類を提出しなければな

らない。

(1) 研究成果物(研究論文3編以内。著書がある場合1冊。)

(2) 前号により提出する研究成果物の簡潔な要旨(それぞれA4判横書き1,000字以内)。

ただし、研究成果物にすでに要旨(摘要、アブストラクト、サマリー等)が付いている場合には、これをA4判に複写し提出することができる。

(3) 主な研究業績の目録(著書、論文等30点以内)。ただし、第1号により提出する研究成果物には、印を付すものとする。(グループで応募する場合は、構成員それぞれのものを提出する。)

5 選考書類は、返却することができない。ただし、再度の応募に当たっては、著書に限り以前に提出したものを利用することができる。

6 候補者の研究分野(自然科学、人文科学又は社会科学の別)は、候補者等においてこれを明示するものとする。

この場合、研究内容が複数の分野に亘るときは、複数分野を指示することができる。

7 応募書類及び選考書類の提出は、郵送によるものとする。

(日程)

第8条 奨励賞の推薦は、原則として毎年7月15日に応募を開始し、9月30日(当日消印を有効とする。)に締め切り、12月に当該年度の受賞者を決定し、翌年1月に贈呈式並びに受賞者記念講演を行うものとする。

選考委員名簿(50音順、敬称略)

\*\* 阿部 統 東京工業大学名誉教授  
井上邦雄 沖縄協会専務理事  
大鶴正満 琉球大学名誉教授  
垣花秀武 亜熱帯総合研究所理事長  
木崎甲子郎 琉球大学名誉教授  
清成忠男 法政大学総長  
小島美子 国立歴史民俗博物館名誉教授  
\* 小玉正任 沖縄協会会長  
高宮廣衛 沖縄国際大学教授  
\*\*\*高良鉄夫 琉球大学名誉教授  
比嘉照夫 琉球大学教授

外間守善 沖縄学研究所所長  
宮里政玄 元獨協大学教授

\* 委員長

\*\* 東京地区委員長

\*\*\* 沖縄地区委員長

## 催し物

### 第2回日本感性工学会総会講演会

主催：日本感性工学会

協賛：日本学術会議、日本工学アカデミー、(社)計測自動制御学会、(社)自動車技術会、(社)情報処理学会、(社)日本工学アカデミー、(社)高分子学会、(社)精密工学会、(社)繊維学会、(社)土木学会、(社)日本金属学会、(社)日本建築学会、(社)日本心理学会、(社)日本都市計画学会、日本セラミックス協会、日本行動計量学会、日本人間工学会、日本学術会議、(社)電気学会、(社)日本エム・イー学会、(社)日本ロボット学会、(社)日本オペレーションズ・リサーチ学会、(社)日本音響学会、(社)日本材料学会、(社)日本照明学会、(社)日本繊維機械学会、(社)日本繊維製品消費科学会、日本パーソナルリアリティー学会、(社)日本品質管理学会、システム制御情報学会、ヒューマンインターフェイス学会、バイオメディカル・ファジィ・システム学会、ファッションビジネス学会、画像電子学会、形の科学会、日本応用心理学会、日本官能評価学会、日本顔学会、日本計算工学会、日本材料科学会、日本社会心理学会、日本色彩学会、日本味と匂学会、(社)科学工学会、(社)人工知能学会、(社)日本生物工学会、(社)電子情報通信学会、(社)日本塑性加工学会、社会経済システム学会、教育システム情報学会、数理社会学会、日本医療情報学会、日本応用数理学会、日本化粧品技術者会、日本感性教育学会、日本教育学会、日本経営工学会、日本神経回路学会、日本生理人類学会、日本認知科学会

21世紀の潮流 感性産業

会期：2000年9月14日(木)、15日(金)  
会場：工学院大学新宿キャンパス(東京都新宿区西新宿1-24-2)(JR,京王,小田急各線新宿駅西口下車徒歩5分)

21世紀は“感性の時代”。産業構造審議会の最終答申の報告によれば、将来発展する産業群の中に“感性産業”が挙げられています。規格化された物の充足感、女性の就労率の向上、可処分所得・時間の拡大等によって、国民の消費が多様化された財やサービスに移ってきており、様々なタイプのサービス産業が拡大し、我が国経済の全体の牽引車となる見込みであることが指摘され、さらにこのような状況の中で、情報技術の革新が、コンテンツ等の財・サービスの生産・流通・消費に多様な変革をもたらしつつあり、インフラの整備とともに新たな産業フロンティアを切り拓くことが期待されています。日頃の皆様の研究成果をもちより“感性”という学際的雰囲気の中で、大学人や企業人を問わず広く参加者を募りますので、どうかこの機会に21世紀に向けての感性工学・科学を基とした新たな産業を育てていこうではありませんか。多数の皆様方の参加をお待ち申し上げます。

大会実行委員長 椎塚久雄(工学院大学情報工学科)

プログラム

総会

大会

・研究発表(A)一般発表、(B)ポスターセッション、(C)製品展示

・キーノートレクチャ

・研究部会ワークショップ

特別講演

9月14日(木)

1.「グローバルエンジニアリング」

大橋 秀雄(工学院大学学長)

2.公開座談会&トークセッション

「いま、すべてのモノは感性で動く」

WILLプロジェクト(アサヒビール、花王、近畿日本ツーリスト、コクヨ、ト

ヨタ自動車、松下電器)

(1)公開座談会「WILLプロジェクト参加企業に聞く」

(2)そこが知りたい「感性消費時代へのアプローチ法」

9月15日(金)

1.公開インタビュー&公開トークバトル「感性産業のリーダーたち」

・ソニーミュージックエンターテイメント 丸山茂雄社長

・HMV渋谷店長 山田氏

・インディーズファッションデザイナー 大家氏

・銀行関係

・通産省関係

\*一部交渉進行中のため内容が異なってくる場合があります。

懇親会・ワインパーティ等

懇親会：9月14日(木)18:00~20:00

ワインパーティ&エンディングパーティ：9月15日(金)16:00~18:00

詳細は今後ホームページ、会員へのメールでお知らせいたします。

大会組織

・実行委員会顧問

浅井恒雄(日本科学技術ジャーナリスト会議) 内田盛也(日本学術協力財団) 大沼淳(文化女子大)

大橋 秀雄(工学院大) 鈴木邁(千葉大) 長町三生(呉高専)

本多健一(東京工芸大) 森典彦(東京工芸大)

森川陽(信州大) 山田瑛(Y高等研究所)

吉川弘之(日本学術会議)

・実行委員長 椎塚久雄(工学院大)

・副実行委員長 三吉満智子(文化女子大)

長沢伸也(立命館大) 陶山博太(企業行動デザイン研)

・実行委員

青木弘行(千葉大) 大谷毅(宮城大)

宇治川正人(竹中工務店) 春日正男(宇都宮大)

長嶋秀世(工学院大) 成瀬信子(文化女子大)

佐渡山亜兵(信州大) 清水義雄(信州大)

高寺政行(信州大) 神田大樹(西武文理大)

岡崎三(工学院大) 森川陽(信州大)

原田昭(筑波大) 石川正俊(東大)

大場多美子(感響スペース) 白木渡 香

川大), 品川嘉久(東大), 川村隆(信州大) 酒井義郎(山口大), 山内陸平(京都工繊大), 横井紘一(ATA), 吉田倫幸(生命研), 太田健一(姫路工大), 桑子敏夫(東工大)

問い合わせ先

〒104 - 0045

東京都中央区築地4-12-2ライオンズ  
マンション東銀座1005

日本感性工学会事務局

<http://www.soc.nacsis.ac.jp/jske/>

### 国際デザイン・フェスティバル

国際デザイン交流協会 事業内容

国際デザイン・フェスティバル

『生あるものためのデザイン』を基本テーマとする国際デザイン・フェスティバルは、「国際デザイン・コンペティション」「国際デザイン・アワード」「国際デザイン展」の三つの基幹事業によって構成されます。1983年に第1回を開催し、以来、隔年毎に開催しています。本フェスティバルを通じて、わが国を新しいデザインの国際交流の場とするとともに、世界の産業界、デザイン界の発展に寄与することを願っています。

国際デザイン アワード

国際デザイン・アワードは、デザインを通じて産業や文化の振興に寄与し、人類社会の発展に貢献した個人や団体を隔年毎に選定し、その優れた活動や研究の業績を顕彰するものです。過去から現在までのデザイン活動における世界的なレベルの高い業績を対象として、全てのデザイン分野から選定する世界でもユニークな顕彰事業です。このアワードにふさわしい個人や団体を選出するため、数十カ国のデザイナー、デザイン振興機関の代表者、デザイン専門誌の編集長など、デザイン界の権威者を推薦人委嘱し、これらの人々によって推挙された候補者の中から、5人の日本人審査員全員による厳正な審査によって受賞者が選定されます。

国際デザイン・コンペティション

国際デザイン・コンペティションは、人類社会の未来を拓く新しい、デザイン提案を期待して、グラフィックデザイン、プロダクトデザインから、建築デザイン、環境デザインにいたる全てのデザイン分野を対象にして実施する、いわば、デザイン界のオリンピックともいべきもので、国際グラフィックデザイン協会協議会(ICOGRADA)国際インダストリアルデザイン団体協議会(ICSID)および国際インテリアデザイナー連盟(IFDI)の承認を得て行う国際的なデザインコンペです。

賞金総額7万米ドルというスケールの大きさに加え、「集」「交」「水」「火」「土」「風」「触」「遊」として第9回「編む」と、第1回以来一貫してテーマが漢字というユニークさが、世界中のデザイナーの大きな関心を集め、今では「大阪コンペ」の愛称で広く知られ、親しまれています。

このコンペの入賞者の中から、現在、世界のデザイン界を担って活躍している人々が多数育っており、世界的なデザイナーの登竜門としての役割も果たしています。

国際デザイン展

国際デザイン展は、内外の優れたデザインの展示を通じて人々のデザインに対する理解と関心を高めるとともに、国際交流の進展を図ることを目的として、隔年毎に開催されています。当協会の基幹事業である国際デザイン・コンペティションの入賞作品や優秀作品、国際デザイン・アワード受賞者の業績を展示するとともに、協会をはじめ国内外のデザイナー、団体、企業などが参加して、今日人類が抱える諸課題に対してデザインを通じて創造的な主張や提案を行う特別展を開催するなど、あらゆる分野のデザイン作品展示や関連事業を総合的に展開する国際的なデザインイベントです。

### 森正洋陶磁デザイン展

ドイツ磁器博物館 2000年5月5日より7月31日

ハレ美術博物館 2000年8月6日より10月15日

陶磁器デザイナー森正洋。1950年から陶磁器デザインをしてきた作品、約2000点に及び食器を中心とした展覧会が、今年、ドイツの二ヶ所にて開催されます。この展覧会は、1997年「愛知県陶磁資料館」、1998年「長崎県美術館」に引き続いて開催されるものです。なお、この展覧会は、「ドイツにおける日本年」の公式行事のひとつとして登録されております。

[http://www.d1.dion.ne.jp/~hiro\\_oda/](http://www.d1.dion.ne.jp/~hiro_oda/)

森正洋陶磁デザインドイツ展事務局

森正洋産業デザイン研究所

〒843-0302佐賀県嬉野町三坂

tel・fax 095443-2095

小田寛孝 e-mail [hiro\\_oda@d1.dion.ne.jp](mailto:hiro_oda@d1.dion.ne.jp)

URL [http://www.d1.dion.ne.jp/~hiro\\_oda/](http://www.d1.dion.ne.jp/~hiro_oda/)

### 献本御礼

- ・ 学術情報センター紀要 第12号  
文部省学術情報センター
- ・ Design Wave '99 in Toyama
- ・ JAGDA 160 REPORT 2000
- ・ 地域づくりとデザイン3  
丹後地域デザイン調査報告書  
京都精華大学美術学部デザイン学科  
丹後地域文化調査グループ
- ・ 全国高等学校デザイン選手権ニュース Vol.11
- ・ 1999年度第6回全国高等学校デザイン選手権大会報告書  
全国高等学校デザイン選手権大会開催委員会
- ・ 平成11年度モノづくりフロンティア
- ・ アメニティデザインフォーラム事業報告書  
京都府中小企業総合センター

### 会員の移動

平成12年度第1回理事会承認

\*新入会正会員28名(内外国人会員6名)

青山 英樹  
 氏家 良樹  
 大村 昭典  
 小川 容子  
 工藤 俊之  
 坂田 昌克  
 清水 慶太  
 田仲 俊行  
 中島 聡  
 平岡 茂夫  
 松元 有  
 洪 輔延  
 李 在元

井上 全人  
 遠藤 善道  
 岡本 誠  
 菊池 司  
 小林 正子  
 島村 隆一  
 竹内 論  
 豊口真衣子  
 針貝 綾  
 福井 亜矢  
 山下久美子  
 崔 鐘蘭  
 吳 英順

山下 樹三夫  
 \*休会1名  
 大本 雅史

HANI ZGHEIB HERRYHUDRASAH  
 退会:正会員31名(内外国人会員1名)  
 新井 義和  
 石田 宗広  
 岩城 朱美  
 及川 美津子  
 岡安 謙  
 尾上 孝一  
 斉藤 昭美  
 澤 一寛  
 高津 道昭  
 田中 美貴  
 田邊 健雄  
 原田 純子  
 藤戸 琢也  
 藤原 宏紀  
 守本 智美  
 単 元慶

井沢 修  
 今井由美子  
 内田広由起  
 大島 礼治  
 小川 一衛  
 栗原 徹  
 佐々木 仁  
 清水 宏昭  
 田中 淳  
 田中 陽子  
 濱名 邦生  
 深谷美登里  
 藤原 晋  
 皆本二三江  
 脇屋 暉男

\*年間購読会員1件  
 (株)テクノプラザみやぎ  
 \*賛助会員1件  
 九州松下電器(株)デザインセンター  
 平成12年度第2回理事会承認  
 \*新入会:正会員13名(内外国人会員1名)  
 青木 陸祐  
 太田 摩耶  
 平田 亨  
 松尾 雄三  
 宮川 清  
 山田 慶子  
 申 熙卿  
 \*退会3名  
 久保田 康夫

及川 玲奈  
 下川 真人  
 藤木 淳  
 真壁 友  
 森口 和明  
 湯浅 佑介  
 吉村 純

## 日本デザイン学会本部事務局新住所のご案内

### JR西荻窪駅下車

注)土日曜日、祝日には中央線快速電車は止まりませんので  
 総武線各駅停車または、地下鉄東西線でお出かけください。

西荻窪駅北口徒歩2分のところです。オートロックになっておりますので、  
 入り口で703(呼)を押して下さい。

新住所(7月1日より)

〒167-0024

杉並区西荻北3-21-15

ベルフォート西荻703

日本デザイン学会本部事務局

TEL:03-3301-9318

FAX:03-3301-9319

## 事務局より

### 会費自動引き落としのお知らせ

本年度会費は2000年(平成12年)4月27日に引き落としとなりました。

|         |          |                 |
|---------|----------|-----------------|
| 引き落とし額: | 正会員年額    | 13,000円         |
|         | 年間購読会員年額 | 25,000円         |
|         | 賛助会員年額   | 1口10,000円(3口以上) |

通帳には、銀行により、「JSSDカイヒ」もしくは「ニホンシンパン」と記載されております。会員各位において、ご確認ください。

なお、領収書の発行が必要な方は、事務局までご一報ください。領収書発行の登録手続きをいたします(登録は初回のみ。以後は必要ありません)

### 自動引き落とし手続きのお願い

当学会は、会費の自動引き落としが義務づけられております。

すでに、3分の1以上の会員の方にご利用いただいておりますが、まだ登録がお済みでない会員の方は至急登録手続きをされますよう、お願い申し上げます。

### 届け出は文書にてお願いいたします

転居される方は、FAXまたは、綴じ込みの「入会届け」に朱書きで「変更届」と書き添えて、事務局まで連絡ください。退会等の届け出も必ず文書にてお願いいたします。